

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 現代陶芸美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 57,098千円 (前年度予算額：29,564千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	29,564	9,510	0	4,439	0	0	0	0	15,615
要求額	57,098	16,304	0	9,532	0	0	0	0	31,262
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・岐阜県現代陶芸美術館の収蔵品等を多角的視点から展示
- ・国内からの借用作品による多彩なテーマの企画展示

(2) 事業内容

○企画展開催事業費

① 「岐阜県現代陶芸美術館 20年の歩み」 [特別企画展]

令和4年9月10日(土)～11月6日(日)：50日間

② 「愛のヴィクトリアンジュエリー展」 [巡回展]

令和4年11月19日(土)～令和5年1月22日(日)：50日間

③ 「超絶技巧 part 3 展」 [巡回展]

令和5年2月4日(土)～4月9日(日)：56日間

○コレクション展 [常設展] 開催事業費

① 「コレクション展 1」 [常設展]

- ・コレクション・ハイライト、令和3度新収蔵品展、セラミックス・ジャパン関連作品展

令和4年9月10日(土)～2月19日(日)

② 「コレクション展 2」 [常設展]

- ・コレクション・ハイライト、令和 3 年度新収蔵品展、日本の茶器
令和 4 年 3 月 4 日(土)～令和 5 年 9 月 24 日(日)

○M o M C A サテライトミュージアム

- ・館外施設を活用して、当館収蔵作品を展示する移動美術展「M o M C A サテライトミュージアム」を開催する。

令和 4 年度 土岐市美濃陶磁歴史館・岐阜県図書館・可児市郷土歴史館
で開催予定

○デジタル・アーカイブ

- ・20周年記念収蔵品選作成
美術作品等のデジタル化、20周年記念図録の製作

○海外美術館との交流事業費

- ・新本市立鶯歌陶磁博物館学芸員の招へいによる当館コレクションや美濃
陶芸・陶磁器産業の調査研究

○準備費

- ・令和 5 年度以降の企画展等の準備、調査

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	300	謝金
旅費	1,444	職員旅費、講師等費用弁償
消耗品費	1,941	展示用消耗品費、配布用図録費
会議費	28	講師会議
印刷製本費	1,879	ポスター等印刷
役務費	2,095	通信運搬費
委託料	32,216	展示等業務委託料
使用料	223	会場借上料
負担金	16,972	巡回展負担金
合計	57,098	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

【特別企画展・巡回展】

開館 20 周年記念として、当館の基本方針に沿った分野の展覧会（20 年の歩み）をはじめ、巡回展として好評である工芸分野（ジュエリー、金工・漆工・木彫等）の様々な作品を紹介する。これらにより新たな来館者を獲得するとともに、県民の陶芸等芸術文化に関する知識・教養の向上及び県陶磁器産業の発展に寄与する。

- (1) 「現代陶芸美術館 20 年の歩み展」特別企画展
- (2) 「愛のヴィクトリアンジュエリー展」巡回展
- (3) 「超絶技巧 part3 展」巡回展

【コレクション展[常設展]】

当館のコレクションに基づいて、幾つかの観点から展覧会を計画している。

第 1 期は、コレクション・ハイライトとして当館コレクションの逸品や、テーマに基づく作品群、令和 3 年度に収蔵した作品を展示する。第 2 期は、コレクション・ハイライトとして当館コレクションの逸品や、テーマに基づく作品群、また令和 3 年度に収蔵した作品を展示する。

中でも、コレクション・ハイライトには一室を配し、当館の魅力的な収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介するもので、これによりぶらりと立ち寄った方が、いつでも当館所蔵の名品を鑑賞できることになる。

以上のように、企画展とコレクション展[常設展]の双方で、多角的で魅力的な展示事業を展開する。

【MoMCAサテライトミュージアム】

施設改修に伴う休館中に、館外施設を活用して、当館収蔵作品を展示する「MoMCAサテライトミュージアム」を開催し、広く県民に岐阜県が誇るやきもの文化の魅力を伝える展覧会を行う。

- ・ R 4 年度 土岐市美濃陶磁歴史館・岐阜県図書館・可児市郷土歴史館で計 3 回実施予定
- ・「MoMCAサテライトミュージアム」開催中、会場施設またはその周辺施設を活用して関連企画を催す。

- ・収蔵作家トーク・対談会・講演会
- ・当館学芸員による展示解説（ギャラリートーク）
- ・展覧会に関わる文化講座・来館者参加型の鑑賞会
- ・造形ワークショップ 等

当館になじみのない東濃以外の県民への認知度向上が期待できる。また、東濃地域でも開催することとし、地域の住民にもリニューアル後の来館意欲を高めることができる。

【デジタル・アーカイブ事業】

開館以来収集してきた美術作品や関連資料をデジタル化し、20周年記念図録の製作準備、資料をデータベース化することにより、展覧会企画、教育普及活動等に活用する。それにより、当館の展覧会、教育普及活動が充実し、来館者の増加につなげることができる。

【海外陶芸美術館との交流事業費】

当地域調査を目的とした新北市立鶯歌陶瓷博物館学芸員の招へい

- ・R1年度には当館学芸員が新北市立鶯歌陶瓷博物館の予算で渡航、現地で調査研究を実施し、この調査をもとにR3年度に展覧会を開催。
- ・同様に、新北市立鶯歌陶瓷博物館学芸員を岐阜へ招へいし、展覧会の開催を視野に学術的・専門的観点から当館コレクション及び当地域の陶芸・陶磁器産業に関する調査を行う。
- ・鶯歌陶瓷博物館は、台湾随一の陶芸専門博物館であり、同国内における陶磁文化発信の中心である。また、国際ビエンナーレの開催などからも分かるように、その発信力は国際的に認められているものである。同館において当館及び岐阜県の陶磁器文化・産業が紹介されることにより、台湾のみならず全世界的に、当県文化の知名度の向上やそれに伴う地域振興・観光誘客が期待できる。

【準備費】

令和5年度以降に展示計画をしている企画展等の準備、調査をおこなう。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度	R3年度	R4年度	終期目標	
		実績	目標	目標	(R4)	達成率
入場者数		29,714	12,700	31,200	31,200	105%

○指標を設定することができない場合の理由

(これまでの取組内容と成果)

令和
2
年度

○取組内容

【企画展】

- ① Human and Animal 展（巡回展） 土に吹き込まれた命
令和3年4月24日～6月20日
- ② 町田市立博物館所蔵 岩田色ガラスの世界展（巡回展）
—岩田藤七・久利・糸子—
令和3年7月10日～8月29日
- ③ 台湾現代陶芸の力展（特別企画展）
台湾・新北市立鶯歌陶瓷博物館所蔵による
令和3年9月11日～10月31日

【コレクション展[常設展]】

- ① 「コレクション展1」
 - ・やきもののデザイン
 - ・コレクション・ハイライト
 - ・令和元年度新収蔵作品展令和3年3月23日～令和3年7月25日

② 「コレクション展 2」

- ・美濃の陶芸
 - ・コレクション・ハイライト
 - ・令和 2 年度新収蔵作品展
- 令和 3 年 8 月 7 日～10 月 31 日

○成果

【企画展】

- ① 「Human and Animal」展（巡回展）は、人と動物という根源的なモチーフに土素材を通じて向き合う国内外の 5 作家作品で紹介した。身近ないきものを中心とした作品が多く、子どもから大人まで楽しめる展覧会で好評につき、多く美術ファン層を開拓できた。ただし、ゴールデンウィーク後は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、外出自粛ムードと重なったこともあり一時伸び悩んだ。
- ② 「岩田色ガラス」展（巡回展）は、町田市立博物館のコレクションを厳選して紹介することをはじめ、当館では「岐阜県美術館所蔵 もう一人のパイオニア 各務鑛三 クリスタルガラスの世界」と銘打ち、多治見市出身の各務鑛三の作品を紹介したことで、来館者（地元）の関心をさらに高めることができた。
- ③ 「台湾現代陶芸の力」展では、進化し続ける台湾現代陶芸を、台湾・新北市立鶯歌陶瓷博物館のコレクションを通じて紹介する。台湾は国際的な陶芸のコンペ展を実施しており、陶磁器については世界的に有名である。このことから、本展覧会は、今回の国際陶磁器フェスティバル美濃に合わせ、多くの集客を見込んでいる。

【コレクション展[常設展]】

- ① 「やきもののデザイン」では、当館所蔵の柱のひとつ、実用陶器コレクションから優品を展示し、当館の幅広い収集活動の一端を紹介した。日常的に使用する産業陶器名と比較想像しながら、それぞれの感じ方で、様々に思いを巡らし、作品そして作家との対話を楽しんでいただいた。

「コレクション・ハイライト」では、収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介することで、ぶらりと立ち寄った方でも、いつでも当館の逸品を鑑賞していただくことができた。

「新収蔵作品展」では、新たに収蔵することになった作品を展示することで、当館の新しい魅力を発信することができた。

	<p>② 「美濃の陶芸」では、当館所蔵の柱のひとつ、美濃陶芸関係コレクションから優品を展示し、当館の幅広い収集活動の一端を紹介する。美濃の地域性から、それぞれの感じ方で、様々な思いを巡らし、作品そして作家との対話を楽しんでいただく。</p> <p>「コレクション・ハイライト」では、収蔵作品のうちでも珠玉のものを紹介することで、ぶらりと立ち寄った方でも、いつでも当館の逸品を鑑賞していただく。</p> <p>「新収蔵作品展」では、新たに収蔵することになった作品を展示することで、当館の新しい魅力を発信する。</p> <p>「令和2年度新収蔵作品展」では、新たに収蔵することになった作品を展示することで、当館の新しい魅力を発信することができる。</p> <p>本年度は、11月より(次年度・令和4年9月上旬まで)、美術館を含めたセラミックパーク全体において空調と照明の改修工事が行われる。工事期間中、当館は休館となるが、「サテライトミュージアム」として、瑞浪市陶磁資料館(11/20～2/20)、神戸市の日比野五鳳記念美術館(12/11～1/23)、飛騨市美術館(2/5～3/13)の展示スペースを借用して、当館の収蔵品を展示・披露する。</p>
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p>
	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p>
	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	近現代の国内外の優れた陶芸文化を紹介する展示事業は、子どもや若い世代の感性を育てる教育的事業であるとともに、美術ファンを含む県民のニーズに対応する文化事業として重要である。また、地元陶磁器産業や作家等と連動し、その活性化に資する点で必要性が高い。
・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	平成14年の開館以来、多様な展示活動によって、世界の優れた陶芸を身近に鑑賞できる施設として認知されてきた。また、地域に根差した展示活動についても評価されている。令和3年度は、陶芸専門館として、国内外作家の現代陶芸や、陶芸にかかわる工芸領域のガラス作品などの展示などから、県民の多様なニーズに対応することができた。
・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	所蔵品を生かすと同時に、魅力発信事業を企画展と連動させるなどして、展覧会の多角的な展開を図った。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、催事等の事業が中止・延期となったが、一部はオンライン代替などで対応することもできた。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当初予定していた学校をはじめとした普及活動や、来館イベントを中止・延期したり、オンラインをしたりして代替開催をした。令和4年度も感染状況を把握しながら、来館者にとって安心安全な環境をつくり、魅力的な展覧会を開催できるよう臨機応変に対応する必要がある。	
--	--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

当館は、国内外の様々な優れた陶芸作品が見られると同時に、様々な県民や美術ファンのニーズに答えるべく、美術館活動を実践してきた。その上で、近年は陶芸を隣接ジャンルや他ジャンルと関連付け、陶芸の領域を越える広い視野から展示活動を行ってほしい、といった声にも応えている。

今後も当館の展示活動の基本方針に基づきつつも、より斬新な視点で県民の要望に応えるため、創意工夫を行っていく。

作家や作品、所蔵家に対する情報を常に集める努力をしながら、展示と収集に向けて積極的に取り組む。

また新型コロナウイルス感染症対策に努め、来館者にとって安全に鑑賞できる環境を提供するとともに、令和4年度の開館20周年に向けて、施設・設備の更新に怠りなく努め、展示・保存環境の向上を目指していく。

さらに、地域や国内、海外の陶芸館との連携強化を進めていくも重要と考えて取り組む。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	